

英空母打撃群の横須賀寄港に係る国からの説明について

1. 日 時 令和7年（2025年）6月25日（水）14時00分～14時30分
2. 来 訪 者 防衛省 大和太郎 防衛政策局長
外務省 熊谷直樹 外務省北米局審議官
3. 対 応 者 上地市長
市長室 中野市長特命参与
市長室 国際交流・基地政策課 宮治課長
4. 説明概要

□防衛省（大和防衛政策局長）

- 2023年12月、英国政府は、本年夏頃に空母打撃群を日本含むインド太平洋地域に展開させる旨発表した。このような英国のコミットメントについて、本年1月にロンドンで実施した日英防衛相会談においても、我が国として歓迎する旨、中谷防衛大臣から伝達した。
- 我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさと不確実性を増す中、この寄港が、「自由で開かれたインド太平洋」の実現を目指し、地域の平和と安定に貢献するという英国のコミットメントを示すものであると共に、我が国の安全保障及び日英安保・防衛協力の一層の強化に貢献するものであるとの観点から、本寄港を是非実現させたいと考えている。
- 今般の日本寄港に際し、英国海軍の象徴的な艦艇である空母「プリンス・オブ・ウェールズ」については、長年、米空母の母港として日本の防衛に大きく貢献いただいている実績のある、ここ横須賀に寄港させたいと考えており、これについて市長に直接御説明を申し上げたく伺った。

■市 長

- ご承知のとおり、横須賀は、海上自衛隊と米海軍を抱える日本の海上防衛の要のまちであると認識しているが、日本の安全保障、そして地域の平和と安定のために、横須賀がどのように協力ができるのかということを常に自問自答している。
- そして何よりも市民の理解を得ながら、横須賀の自衛隊施設、米海軍横須賀基地が、安定的に運用されることこそが重要であると考えている。

- 令和３年９月には「クイーン・エリザベス」が入港したが、今般の英国空母打撃群の寄港についても、いくつか確認をさせていただいたうえで、私の考えを整理させていただきたいと思う。
- まず、「プリンス・オブ・ウェールズ」の寄港場所が、米海軍横須賀基地である理由は何か。

□防衛省（大和防衛政策局長）

- 我が国として、米横須賀海軍施設を寄港地として使用を認めるのは、今般の寄港がインド太平洋地域の平和と安定に積極的に貢献するという、英国のコミットメントを示すものであり、また、我が国の安全保障及び日英間の安保・防衛協力の強化に貢献するものであることから、今般の活動が我が国の安全及び極東の平和と安全の維持への寄与という日米安保条約の目的に合致するものであると考えていることによるものである。

■市 長

- 「プリンス・オブ・ウェールズ」以外の艦船について、具体的に決まっていることはあるのか。

□防衛省（大和防衛政策局長）

- 「プリンス・オブ・ウェールズ」は本年の８月に米横須賀海軍施設に寄港する予定であり、また、空母以外の艦船の寄港予定について、現時点で、海上自衛隊横須賀基地に、英国海軍駆逐艦「ドントレス」及びノルウェー海軍フリゲート艦「ロアール・アムンセン」を寄港させたいと考えている。なお、「プリンス・オブ・ウェールズ」以外の艦船の寄港予定について、寄港艦艇の名称は現時点のものであり、今後変更があり得る。

■市 長

- それでは、「プリンス・オブ・ウェールズ」の寄港日を含め、寄港艦艇や寄港日が確定次第速やかに情報提供いただきたい。
- 現時点での確認は以上だが、寄港までにまだ日数があるので、疑問や課題が生じた場合には、事務方でやりとりさせていただく。
- 今回の英空母打撃群の横須賀への寄港については、我が国を取り巻く安全保障環境が格段に速いスピードで厳しさと不確実性を増している中で、地域の平和と安定のためには、ある意味必然的なことなのではないかと、私は考えている。

- 前回、令和３年の「クイーン・エリザベス」の寄港の際は、新型コロナウイルスがまん延していた時期であったため、乗組員の方は施設内にとどまられていたが、今回は施設外への外出も予定されているということで、高い意識と、モラルある行動を強くお願いしたい。

以上